



いままでも、これからも。

勉強、クラブ・サークル、留学、資格、趣味、恋愛、アルバイト…。

大学生活では、自分の興味のあることに全力で取り組むことができます。

今回特集する3人の共通点は、桃大でボランティア活動を始め、4年間続けてきたこと。

ボランティアは、どちらかというと真面目なイメージや、敷居の高い活動と思われがちです。

ただ、そのイメージが先行し、ボランティア活動を遠ざけていませんか？

今回、彼らがボランティア活動を始めたキッカケや、

ボランティア活動から学んだことについて話してくれました。

皆さんのボランティアのイメージが、変わるキッカケになれば嬉しいです。

これからも、いろんなことにチャレンジしたい。



僕は中学・高校とテニス部に所属していましたが、大学ではまったく違う文化系の活動をすると決めていました。ただ、文化系のサークルは趣味に直結するものが多かったので、色々な活動ができそうなボランティアスタッフに入り、4年間活動を続けました。3回生のときは、ボランティアスタッフのリーダーを務めました。

子どもと関わるボランティアを中心にさまざまな活動をしました。最も印象に残っているのは2・3回生のときに参加した『熊本地震復興支援ボランティア』。熊本の子ども達との宿泊行事では、地震発生から1年以上経っても地震の話を繰り返す子、地震を思い出し泣き出す子がいました。熊本の街は復興しつつありますが、子ども達はまだ心に傷を負っていることを痛感しました。活動中は彼らの心に寄り添いながら、みんなが笑顔になることを心がけていました。社会人になっても、少しでも熊本の子どもの力になる活動を続けたいと思っています。

ボランティアだけでなく、1人旅も大学生活の良い思い出です。1回生のときバックパッカーとして2週間タイに行ったドキドキワクワクした気持ちは、今でも鮮明に覚えています。それがきっかけで2回生では台湾、先々月にはシンガポールにも行きました。そこで痛感したのが英語力。精度の高い音声翻訳機を頼るだけでなく、もっと英語を話せていれば、現地の人もたくさんコミュニケーションを取れたはず。大学で英語の勉強にもっと力を入れておけばよかったと後悔していますが、ボランティア活動と1人旅で、充実した大学生活になりました。

最近、やりたいことが何もないという桃大生が多いように感じています。大学の4年間は、本当にあっという間に過ぎていきます。僕は興味あるものすべてに、まず1回チャレンジすることを心がけていました。チャレンジしないと自分に合う・合わないもわからないし、それがわかっただけでも、僕は自分の成長につながっていると思っています。チャレンジした活動の中から1つだけでいいので、「自分はこれだ!」というものを見つけ、その活動に全力を注いでください。きっと充実した学生生活を過ごすことができるはず。社会人になっても、色々なことに積極的に参加したいと思っています。



最後の活動になった桃山祭で、4回生メンバーと。

岩橋 洸平さん

(社会学科4回生)

これからも、人の役に立ちたい。



小さい頃から大好きな祖父母が大阪に住んでいたこともあり、私は地元の愛媛県の大学ではなく、桃大で学ぶことを決めました。せっかく大阪に来たなら充実した学生生活を過ごそうと決め、4年間色々な活動をしてきました。

その中のひとつが、ボランティアスタッフの活動です。ボランティアって真面目な人・大人しい人が多いイメージを持っていましたが、それは思い込みだとすぐわかりました。ボランティアスタッフの説明会で先輩達の雰囲気もものすごく良くて、すぐに入ること決めました。大袈裟でなく、ボランティアスタッフに入っていなかったら、きっと充実した4年間は過ごせていなかったと思います。大学に入ったときは知り合いが1人もいませんでしたが、今は大切な仲間がたくさんいます。

1番思い出に残っているボランティアは「さかいまつり大パレード」。大勢の観衆の中を仮装して満面の笑みで手を振りながら歩くことって、普通に学生生活を過ごしているだけではなかなか経験できませんよね。沿道にいる小さい子ども達からご高齢の方まで、皆さんの笑顔が嬉しくて、私達も自然と笑顔になれるボランティア活動です。ボランティアに参加すればするほどみんなとの仲も深まるので、自然とたくさんの活動に参加するようになりました。

それ以外では、聴覚に障がいのある仲間の耳の代わりとなってサポートする「ノートテイク」の活動を4年間続けました。ノートテイクは先生の話している言葉を要約して伝えるものです。1回生の頃は先生の言葉がうまく伝えることができるか不安でしたが、講義が終わってすぐ「よくわかったよ、ありがとう!」と聴覚に障がいのある仲間から初めて言われたときの喜びは一生忘れないと思います。この活動で、先生の強調したい言葉を理解する力・ノートを取る力がつきました。

卒業後は地元の銀行に就職します。就職活動中は、人と接することの多い職業に焦点を当てていました。それもボランティア活動が大きく影響しています。桃大での4年間で、人の役に立てることが好きなんだと知ることができました。大学受験のときは愛媛に残るか大阪に行くかかなり迷いましたが、今は「桃大に来てよかった!」と胸を張って言えます! 皆さんもボランティア活動、始めてみませんか?



さかいまつりのパレード前は、いつもドキドキワクワク!

今井 満里奈さん

(経済学科4回生)

これからも、ボランティアを続けたい。



ボランティアスタッフに入ったのは、この冊子で話している岩橋くんが偶然英語の授業で隣に座っていて誘われたのがキッカケ。当時は、「ボランティアなんて自己満足ちゃうの?」と半信半疑で活動を始めました。初めてのボランティア活動が終わったとき、それは思い込みだったとすぐに気がきました。たくさんの人が笑顔でいる場の居心地が、とても良かったことを覚えています。それからは固定観念で物事を判断せず、少しでも興味のあることはまずやってみることを心がけて大学生生活を過ごしていました。

前のページで話してくれていた今井さんのノートテイクのパソコン版であるパソコンテイクとして活動したのも、良い経験になりました。活動からノートを取る力が身に付いたこと等もありますが、それよりも聴覚に障がいのある仲間との接し方を学べたことが、自分の力になっていると感じています。

始めは彼らとは筆談で話すものだと思っていました。しかし、彼らは僕達の口の動きを読み取り、会話をすることができます。そのとき気をつけるのは、口を大きく開けて、ゆっくりと話すこと。今ではそれが自然にできています。こういった、ちょっとした配慮をするだけで簡単にコミュニケーションが取れることを学びました。

大学生活の中で楽しかったのは卒業論文でした。…と言うと、すごく真面目なイメージを持たれそうですが、全然そんなことはありません(苦笑)。卒業論文=難しい・大変というイメージを持っている人が多いと思います。僕も始めはそう思っていました。しかし、狭い領域のことを調べているはずなのに、それについて多くの人の多種多様な意見を知ることができるので、自分の知識が広がります。桃大の後輩には、自分が興味を持っているテーマのゼミを選んでほしいです。少しでも興味のあるものが、絶対にひとつはあるはずですよ。時間をかけてひとつのことを突き詰めること、意外と楽しいですよ。

社会人になればボランティア活動をする機会は減るかと思いますが、日程が合えば今年卒業するボランティアスタッフの仲間と、またボランティア活動ができれば嬉しいです。個人的に、住んでいる兵庫県でできる神戸マラソンのボランティアに参加するつもりです。桃大以外でもボランティア仲間が増えれば嬉しいなあ…。



子どもとの接し方を学べた、ももやまキッズランド。

廣田 直幹さん

(社会学科4回生)